

「IHI」 安倍首相の中央アジア歴訪

民間ミツシヨンで青柳社長が同行

キルギス農業土地改良省と覚書

安倍晋三首相は、10月22～28日の7日間、中央アジア、モンゴルの6カ国を歴訪した。その中で今回(株)IHIスター(北海道千歳市・青柳稔社長の青柳社長は50の企業団体と共に民間ミツシヨンの一員として参加し、ウズベキスタン共和国とキルギス共和国、カザフスタン共和国の3カ国に同行した。キルギスでは、安倍首相とアルマズベク・アタムバエフ大統領立会いの下で行われた署名式において、『同社の農業機械を用いたキルギスの農業分野の近代化における協力関係の発展と強化を確認する』旨の覚書をキルギス農業土地改良省と公開株式会社アイルバンク(政府系農業金融機関)と各々調印した。

両社との覚書調印に至る経緯として、2014年度のJICA民間技術普及事業で採択された広域酪農地向け農業機械普及促進事業が重要視され、その後のキルギス側とIHIグループ、そしてIHIスターの協力関係の継続が評価された事

が挙げられている。そしてついでキルギス農業土地改良省とIHIスターとの覚書は、キルギス農業近代化に農機の更新が必要であることや、同社製品がこれに役立つ事を確認したものである。キルギス訪問の前日に「水資源が豊富で風光明媚なキルギスは、伝統的に畜産や酪農、農業も盛んです。日本が中央アジアを力国と行なっている『中央アジア+日本』

が進められていると承知している。山がちで小さな田圃が多い日本では、小回りの利く丈夫で壊れにくい農機が活躍している。これがキルギスでも効力を発揮する事を期待している」と述べた(出典：外務省ホームページ紹介のアクプレス通信10月26日付による安倍総理大臣インタビュー)。

またカザフスタンでは、青柳社長はビジネスフォーラムで農業分野の報告として、中央アジア内でのIHIグループとIHIスターの取組と、カザフスタンにおける展示会出品・デモンストレーション・製品トレーニング等の推進状況の説明を行なった。



安倍首相、アタムバエフ大統領の立ち合いの調印式で署名文書交換

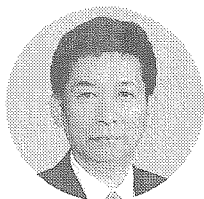
安倍首相と中央アジア訪問

IHIスター

キルギスで調印式

青柳社長が民間ミッション

㈱IHIスター(青柳稔社長・北海道千歳市上長都106-1の2)の青柳社長は、安倍晋三首相が、10月22日から7日間の日程で、モンゴルと中央アジア5カ国を歴訪したの際に、民間ミッションの一員として、ウズベキスタン共和国・キルギス共和国・カザフスタン共和国の3カ国に同行。キルギスでは、安倍首相とアルマズベク・アタムバエフ大統領の立会いのもと行われた署名式で、キルギス農業土地改良省、公開株式会社アイルバンク(キルギスの政府系農業金融機関)とそれぞれ覚書に調印した。



青柳社長

キルギス農業土地改良省とIHIスターとの覚書は、キルギスの農業近代化に農業機械の更新が必要であること、IHIスターの農業機械がこれに役立つことを確認するもの。

一方、アイルバンクとIHIスターの覚書は、IHIスターの農業機械を用いたキルギスの農業



分野の近代化における協認するもの。
力関係の発展と強化を確一 両者との覚書に至る経

緯として、2014年度のJICA民間技術普及事業に採択された「広域酪農地向け農業機械普及促進事業」が重要視され、その後のキルギス側とIHIグループIHIスターの協力関係継続が評価されていることが挙げられる。

調印式で署名文書交換を行うアイルバンクのエルキン頭取(右)と同社の青柳社長(左)。後方は拍手をする安倍首相(写真提供はキルギスのアイルバンク)

キルギス訪問の前日、安倍首相は、キルギスのアキプレス通信のインタビュースタッフに、「水資源が豊富で風光明媚なキルギスは、伝統的に畜産・酪農や農業も盛んです。日本が中央アジア5カ国と行っている『中央アジア+10日本対話』では、昨年、キルギス議長国の下で、農業分野での協力を重点的に行っていくことで一致しました。この決定に従って、キルギスとの間でも農業分野で様々な協力が行われていますが、特に、現在、日本製農機のキルギスにおける普及・販売の案件が進められていると承知しています。山がちで小さな田圃が多い日本では、小さい回りのきく、丈夫で壊れにくい農機が活躍しています。これがキルギスでも効力を発揮することを期待します(外務省ホームページ)と話した。

また、カザフスタンでは、青柳社長はビジネスフォーラムで農業分野の

安倍首相同行

農業の近代化に貢献

IHIとキルギスが調印

安倍首相は10月22日から7日間の日程で、モンゴルと中央アジア5カ国を歴訪。

IHIスター―北海道千歳市上長都10611―2の青柳稔社長は、その民間ミッションの一員



27日の調印式の様子 (写真提供・アイルバンク〈キルギス〉)

としてウズベキスタン共和国・キルギス共和国・カザフスタン共和国の3カ国に同行した。キルギスでは、安倍首相とアルマスベク・アタムバエフキルギス大統領立会いのも

とで行われた署名式で、キルギス農業土地改良省、キルギスの政府系農業金融機関の公開株式会社アイルバンクと、それぞれ農業の近代化などの覚書に調印した。

キルギス農業土地改良省とIHIスターとの覚書は、キルギスの農業近代化に農業機械の更新が必要であること、IHIスターの農業機械がこれに役立つことを確認するもの。そして、アイルバンクとIHIスターとの覚書は、IHIスターの農業機械を用いたキルギスの農業分野の近代化における協力関係の発展と強化を確認するもの。

両者との覚書に至る経緯として、2014年度のJICA民間技術普及事業に採択された「広域酪農地向け農業機械普及

促進事業」が重要視され、その後のキルギス側とIHIグループIHIスターの協力関係継続が評価されたことが挙げられる。

なお、キルギス訪問の前日、安倍首相はアキアレス通信(キルギス)のインタビューに応じており、以下のように述べている。

「水資源が豊富で風光明媚なキルギスは、伝統的に畜産・酪農や農業も盛んです。日本が中央アジア5カ国と行っている

「中央アジア+日本」対話では、昨年、キルギス議長国の下で、農業分野での協力を重点的に行っていくことで一致しました。この決定に従ってキルギスとの間でも農業分野で様々な協力が行われていますが、特に、現在日本製農機のキルギスに

おける普及・販売の案件が進められていると承知しています。山がちで小さな田園が多い日本では、小回りのきく丈夫で壊れにくい農機が活躍しています。これがキルギスでも効力を発揮することを期待します」。

また、カザフスタンでは青柳社長がビジネスフォーラムで農業分野の報告を行い、中央アジア内

同社は今後も中央アジア各国に向けて、様々なビジネスを推進していく方針だ。

- 一頁：農機新聞 (11月10日)
- 二頁：農経しんぼう (11月9日)
- 三頁：農村ニュース (11月9日)